

まさには

「同じ人間でした」

「エリヤは、私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ると、三年六か月にわたって地上に雨が降りませんでした。」

(ヤコブの手紙 第5章13～18節・旧約聖書416頁)

はじめに

主イエスの弟として生まれたヤコブは、「兄」イエスが救い主として宣言し、活動するようになって、にわかに受け入れがたく、葛藤の日々を過ごしていました。しかし、主の十字架と復活を目の当たりにしたことで、「この方こそ救い主である」との確信に至り、信仰を深め、後にエルサレム教会の指導者となりました。

ヤコブがこの手紙で説いている「御言葉を行う」とは、疑いを乗り越えて、人の言葉ではなく、神の御言葉であることを信じていくことを勧めています。ヘブル語の「信仰」という語には、「横たわる」という意味があります。まさに御言葉の上に信じ切って横たわり、御言葉が実現していく経験を重ねていく。それにより、信仰はより深められていくのです。

避けられない苦しみ

さてヤコブは、御言葉を信じ、横たわることによって信仰が深められた私たちには、祈りにも変化が起こることを示唆しています。

「主が来られる時まで忍耐しなさい」(5:7)とは、私たちがこの世で生活をしている限り、忍耐を必要とする苦難や試練があることを言っています。特に、肉体がある以上、病はつきまといますが、病も含め、こうした避けられない苦しみがもたらされても、私たちには祈るという強力な手段があることを忘れてはなりません。ヤコブは、それを教えています。

祈りの力

まず、弱っている時には、「教会の長老」つ

まり、牧師、伝道者に祈ってもらうようにと勧めています。「オリーブ油を塗る」という行為は、例えば王や祭司などに油を注いでいますが、これは俗の世界から選び、聖別することを意味しています。つまり、その問題を「人」の問題ではなく、「神」の問題にし、神に解決していただくという行為です。神に委ね、神からの答えをいただく、そのことを個人的な課題にするのではなく、「長老」に神の問題であると宣言してもらい、その自覚を持って、神からの解決を待ち望み、改めて祈るのです。

次に信仰の祈りをささげることが勧められています。これは、先にも申し上げたように、いただいた御言葉をしっかりつかんでその上に横たわり、神の言葉であるから、必ず実現するのだと祈る姿勢です。

それでも祈りの姿勢が揺らぐことがあるでしょう。そこでヤコブはエリヤを引き合いに出しました。エリヤもまた弱かった。イゼベルに「殺すぞ」と脅されて逃げてしまうような、私たちと同じ人間でした。だけれど、あのカルメル山で何が起こりましたか。と論ずるのです。私たちは弱さを持っています。しかし、その弱さこそが武器なのです。立派な信仰を持っているから神がその祈りを聞かれるのではなく、神はその人の委ねかたをみておられます。放り出すものではありません。神がなされることを信じていくのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



今週の祈り

「あなたがたの中に苦しんでいる人があれば、祈りなさい。喜んでいる人があれば、賛美の歌を歌いなさい。あなたがたの中に病気の人があれば、教会の長老たちを招き、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、弱っている人を救い、主はその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯しているのであれば、主は赦してくださいます。それゆえ、癒やされるように、互いに罪を告白し、互いのために祈りなさい。正しい人の執り成しは、大いに力があり、効果があります。エリヤは、



私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ると、三年六か月にわたって地上に雨が降りませんでした。しかし、再び祈ると、天は雨を降らせ、大地は実りをもたらしました。」(ヤコブの手紙 1:13 ~ 18)

半信半疑で祈ることの多い者です。しかし、どうぞヤコブが勧めているように、祈りの問題を神のものとして委ね、さらには自分の弱さを認めて、神がなされるわざを期待していくものとさせてください。あのエリヤも私たちと同じだったのです。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ!

箴言 (72) 第3章34節

*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「主は嘲る者を嘲り へりくだる人に恵みを与える。」

◎口語訳 「彼はあざける者をあざけり、へりくだる者に恵みを与えられる。」

◎新改訳 「あざける者を主はあざけり、へりくだる者には恵みを受ける」

「嘲る者を嘲る」

この句も先回と同様で連続する対句の一つなのですが、何度も申し上げ、先回の記述とも重複してしまうのですが、聖書に書かれている神に間違った印象を持つ方がおられます。「さばく」「呪う」「捨てる」など、人間の罪深さに対して、神が一方的に宣言されているように受け取ってしまうと、聖書本来のメッセージを受け損なってしまう。

「怒りの神」「裁きの神」との受け取り方をしてしまうのは、日本の宗教観が影響しています。悪い方向に行く人間に対し、その欲望を制御するために、神仏を利用して制御しようとしてきた文化です。例えば、もともとの仏教の教えに「地獄絵図」に見られるような記述はありません。

幼い頃、親戚と一緒に鎌倉大仏を見に行った時のこと、そこで血の池地獄や針の山で苦しんでいる地獄図を買い与えられ、一瞬のうちに「悪

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1 ~ 9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1 ~ 22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17 ~ 31:31)
 - a 知恵ある人の言葉 (22:17 ~ 24:34)
 - b ソロモンの言葉 (25:1 ~ 29:27)
 - c アゲルの言葉 (30:1 ~ 33)
 - d レムエルの言葉 (31:1 ~ 31)

いことをしたらこうなるのか」と頭にすり込まれてしまった経験があります。人間が犯した罪は赦されずに残り、その積み重なった深さによって、行く場所が変わってくる。そこのレベルを判断するのが閻魔大王だというわけです。

「嘲る者を嘲る」とあります。例えば、神を捨てたなら、神はその人を捨てざるを得なくなるのです。神はあくまでもその時の状態をご覧になり、そのように対応されるのです。だから、気付いたならば即座にへりくだっていけば、恵みを与えてくださるのです。

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

【月曜日】 ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

サムエル記下第5章10節「ダビデはますます勢力を増し、万軍の神、主が彼と共におられた。」◆ユダ以外の部族はダビデを王として認めざるを得なくなった。彼らは気づく。「サウル王権下、もっとも目覚ましい働きをしてイスラエルを助けたのも、神の前に正しい信仰を持ち続けていたのも、ダビデだったではないか」。そしてヘブロンに来て服従を誓ったのである。ダビデは高ぶることなく、王位に就く。なんと試練と忍耐の日々であったろう。しかし、苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生む(ローマ5:3)との信仰により、祝福される。

●賛美 / 409 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】 ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

サムエル記下第6章7節「主の怒りがウザに対して燃え上がり、神はウザが箱に手を伸ばしたということで、彼をその場で打たれた。彼は神の箱の傍らで死んだ。」◆ダビデはエルサレムを首都と定め、神殿を築くために神の箱を運ぼうとしたのだが、その途中、ウザが打たれて死に、最初から暗礁に乗り上げた。なぜウザは打たれたのか。「聖なるもの」を「聖なるもの」として扱わなかったからだ。そもそも、牛がつかまざりたのは、御者の扱いがぞんざいだったからだ。私たちは聖なる領域に入ってはならない。神を聖なる方としてあがめるべきだ。

●賛美 / 410 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】 ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

サムエル記下第7章5節「私の僕ダビデのもとに行って告げなさい。『主はこう言われる。あなたは私のために、私が住む家を建てようというのか?』」◆この頃から預言者が登場する。神は王国に預言者を立て、神の計画を告げさせ、それに従うように命じさせた。ダビデには、イスラエルを統一し、信仰を示して王国を整えるようにとの御心を示されたが、ダビデが願っていた神殿の建築は許されなかった。ダビデは反抗せず、自分の願望を捨て神に従った。以降も御言葉に従っていったことで、彼は大きい祝福を得たのである。

●賛美 / 411 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

サムエル記下第8章15節「ダビデは全イスラエルを統治した。ダビデはすべての民のために公正と正義を行った。」◆ダビデは神の前にすべての者が同じ立場であるとの認識から、神にあって公正と正義とを貫いた。その生き方はたちまちに王国のすみずみに浸透し、ダビデ王を信頼し、民たちは服従するようになった。この軸がぶれていると国は治まらない。多くの国の元首が自分の好き勝手をやっている時代、私たちはそれに流されず、神の御旨を求め、どこまでも神の公正と正義とを貫きたいと思う。

●賛美／412 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

サムエル記下第9章8節「メフィボシエは礼をして言った。『この僕など何者でありましょう。死んだ犬も同然のこの私を顧みてくださるとは。』」◆ヨナタンを愛していたダビデは、代わってその子メフィボシエに憐れみを施した。メフィボシエは、サウル家の血筋をひいている自分がかえりみられることを知って、自分を「死んだ犬も同然のこの私」とよんだ。これは最大のへりくだりを表す言葉である。神は「死んだ犬も同然のこの私」を御心にとめ、私を生かそうとの切実な思いから、十字架にかかり、罪を贖って憐れみをほどこしてくださった。

●賛美／413 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

サムエル記下第10章4節「ハヌンはダビデの家臣たちを捕らえ、ひげを半分そり落とし、衣服も半分、尻まで切り落としてから追い返した。」◆イスラエルの人たちはひげをそらなかった。神の恵みの象徴として考えられてもいたからだが、その習慣を知っていたはずのアンモンの人々は、兵士を捕虜とした時、わざとひげを「半分」そり落とし、衣服も下半身が見えるまで切り返すという屈辱を与えた。この行為はダビデを怒らせ、結局アンモンの滅びへとつながっていく。対立ではなく、平和をもたらす行動をとりたい。

●賛美／414 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

サムエル記下第11章27節「喪が明けると、ダビデは人をやって彼女を王宮に引き取り、自分の妻にした。彼女はやがて男の子を産んだが、ダビデのしたことは主の目に悪とされた。」◆ダビデは誘惑に負けた。そしてその悪事を隠すために何度も罪を重ね続けた。忠誠を誓っていた名武將を敵の力を借り、また自軍の兵士に命じ、戦死させた。ダビデだけでなく、私たちもまた、日ごとに、神を忘れさせるような誘惑を受けている。誘惑に陥らないためには祈りしかない。そして、また誘惑されそうなところには近づかないことも知恵の一つである。

●賛美／415 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



おやこでせいしよ

●きょうのせいしよ

【サムエルきじょう 17：1～58】

「ゴリアトとのたたかい」

(17：47)

サウルが かみさまにしたがわないので、かみさまは ダビデを あたらしいおうさまに えらびました。

ダビデが かみさまに えらばれたのは、なによりも そのしんこうが すばらしかったからです。それがわかる できごとがありました。

ダビデの じだいには、ペリシテじんたちが いつも やってきて、たたかいをしていました。そのひも ペリシテくんは イスラエルの ひとたちの ところにきて、たたかいを いどんできました。

「1たい1の しょうぶをしよう。」といって、いどんできたのは、せのたかさが3メートル、かたいせいどうのかぶととよろいをきてものすごくながくりっぱな やりをもった へいし、ゴリアトです。ひとめみて、だれもかなうものは いません。だれも、1たい1のしよ

うぶをしようなどと かんがえる ひとは イスラエルの へいしのなかには いませんでした。

そこに おにいさんたちにおべんとうをとどけるために ダビデがきました。そして、ゴリアトが イスラエルをばかにするような ことばを さげんでも だれも こわがって まえに いかないことをみて、「わたしがいきます」と ダビデがいったのです。

みんな とめました。「なにいつてるんだ。これは あそびではないぞ。こどものおまえに かなうわけがないだろう」。ところがダビデは いくのを やめようと しません。しかたなく、せめて よろいを きせようと しましたが、「いりません」とことわって、いしなけだけをにぎりしめ ゴリアトの まえに でていきました。

ダビデは ちっとも こわくありませんでした。それは かみさまが ともにいてくださり、かみさまが かたせてくださると しんじていたからです。そして ダビデは 勝ちました。

このしんこうが おうさまとして えらばれた しんこうです。

●かんがえてみよう

☆ゴリアトが しょうぶをしようといったとき、イスラエルのひとたちは どうして いましたか。(サムエルきじょう 17:11)

☆ダビデは だれも ゴリアトと たたかわないのをみて、どうしましたか。(サムエルきじょう 17:38)

☆ダビデは ゴリアトとの たたかいに なんと なんて でていきましたか。(サムエルきじょう 17:46)



なめむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

おまえにたちおかう

お	う	か						
			お			た		
え			に		か		む	
			た				う	お
	む		ま	か		ち	え	た
た	か		え	う	ち		ま	に
ま		う	か	ち	に	う		む
か	ち		う	た	え		お	ま
う	に	た				え	ち	か

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① なめらかないし
- ② ようしたんれい
- ③ ちょうせん
- ④ いしなげ

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





牧師の 聖書 ななめ読み

「ブラジルサッカー」

サッカーワールドカップはオリンピックを含むすべてのスポーツイベントの中で最大で、テレビ視聴者数も310億人と、ダントツで一位です。4年に一度の開催で、次回は来年23回目です。この大会の当初から連続出場しているのはブラジルただ一カ国で、優勝回数も5回と最多を誇っています。

ところが、近年、そのブラジルが勝てないのです。先日、勝てなくなった理由を面白い視点から分析した記事がありました。内容を要約すると、

「サンパウロ東部イタケラ地区は40年ほど前まで、貧しい家があふれ、空き地も多くて、裸足でサッカーをする子どもたちの声が響いていたが、今、歴史的な高成長を続けているブラジルは、社会福祉政策を進め、中流層が拡充した。その結果、この地区も中流層が次々と家を見て、人工芝が整ったグラウンドも複数面できた。一方で空き地は減り、路上サッカーをする子どもたちの姿は消えた。『荒れた路上はボールが予測不能な動きをするため、コントロールがひときわ難しい。ましてや裸足だからこそ、技術力が培われる。』のだが、その技術力も、そして豊かになったことでハングリー精神も失われ、弱体化に歯止めがかからない。

豊かさの代償でしょうか。

聖書ふれあい街歩き

●レブ・カマイ/シエシャク

エレミヤ書第5章1章に「レブ・カマイ」(1)、「シエシャク」(41)との名が出てきます。

実は、「レブ・カマイ」は「カルデア」のこと、そして「シエシャク」は「バビロン」のことなのです。

エレミヤ書でもバルクという書記が登場していますが、この当時、書記たちは「アトバシユ式暗号」を使うことがありました。この暗号は、ヘブライ文字の最初「アレフ」と最後「タウ」、2番目の「ベト」と後ろから2番目の「シン」を入れ替える方法です。日本語なら「あ」と「ん」、「い」と「を」のように替えるわけです。「あんこをたべたい」だったら「んあこいたべたを」になり、なんだかわかりません。

でも、預言書なのになぜ暗号を使ったのでしょうか。預言の内容があまりにも危険だからにしては、他の箇所にもカルデア、バビロンと出てきますので、有効ではありません。私の解釈ですが、この暗号を挟み込むことで、この預言が極秘に近く、敵ではなく、神の民たちに分かるように語られているのだとの、神のご意志を伝えた内容にしたかったからではないかと思えます。こんど「なやむ聖書」で出題してみましようか。

ななめ聖書 先週のこたえ

を	び	つ	で	れ	た	て	き	だ
き	て	た	だ	つ	び	を	れ	で
だ	れ	で	き	を	て	た	び	つ
た	を	て	び	き	だ	で	つ	れ
で	だ	き	れ	て	つ	び	た	を
れ	つ	び	を	た	で	だ	て	き
て	で	れ	つ	び	を	き	だ	た
つ	た	だ	て	で	き	れ	を	び
び	き	を	た	だ	れ	つ	で	て

- ①いけにえのぎしき
- ②ところをみる
- ③ひつじのむれ
- ④けっしょく



エフェソでのパウロ

そこで、町の書記官が群衆をなだめて言った。「エフェソの諸君、エフェソの町が、偉大なアルテミスと天から降って来た御神体との守り役であることを、知らない者がいるだろうか。これを否定することはできないのだから、冷静になるべきで、決して無分別なことをしてはならない。

諸君がここに連れて来た者たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒瀆したのでもない。デメトリオとその仲間の職人が、誰かを訴え出たいのなら、裁判の日があるし、総督もおられるのだから、相手を訴え出なさい。それ以外のことで要求があるなら、正式な会議で解決してもらうべきである。今日の事件について、我々は暴動の罪に問われるおそれがある。この無秩序な集会について、何一つ弁解する理由はないからだ。」こう言って、書記官は集会を解散させた。

(使徒言行録19:35~40)



エフェソの大通り

【続・書記官登場】

デメトリオは銀細工人束ねていた人物で、職人仲間呼びかけて騒ぎを起こします。パウロがエフェソに来てそれほど経っていないのに、デメトリオがパウロに異常なほどの警戒感を顕わにしたのは、それまでのパウロの活動状況を知っていたからに他なりません。

パウロが第一次宣教旅行で訪れたのは小アジアの町でした。アタリア、ペルゲ、ピシディアのアンティオキア、イコニオン、リストラなどです。そして第二次宣教旅行ではこれらの町を再訪し、信徒たちを励ましています。これらの町での出来事は当然うわさとして広まっていったわけで、小アジアの中心とも言えるエフェソの町にも伝わっていたことは間違いありません。小アジアの町とは300キロ程度、通じる街道も備えられていましたので、さほど時間はかからなかったでしょう。ですからデメトリオはパウロについて詳しく知っていたのです(19:25)。

最後に登場してきた書記官は、エフェソの最高行政官で、ローマ政府からは日常的な事務処理などを任されている立場です。これ以上騒ぎが大きくなった場合、ローマが介入し、力で鎮圧される事態に陥ることになります。それでなくとも税金も含め、ローマの圧政にあえいでいるわけですから、誰もいい思いはしません。書記官は、それを思い出させ、冷静になるように訴えたのです。

前回、書記官は①アルテミス信仰はなくならず、商売が脅かされるようなことはないと思安心させた。②パウロたちがアルテミス神殿を荒らし、また冒瀆していた事実はない。と訴えたことを記しました。

次に③として、それでも訴えたいのなら、裁判を起こすなり、総督に直訴するなりしたらいい。また、それだけでは不足だと思うならば、議会議案として提出しろというものでした。

まず「裁判の日」とは、定期的に開かれていた裁判を指します。ローマ帝国の属州では、総督（エフェソではアジア州総督）が巡回裁判を行う時期や日程が決まっています。市民同士の紛争や告発は「裁判の日」で扱われていました。

次に「総督への直訴」です。ローマ属州では治安や政情に関わる重大事件について総督に直接訴えることができました。ただし、訴えを起こす際には告発状を提出し、受理されなければなりませんでしたが、ただ、今回デメトリオが暴動を起こしているのです。その過程で「不法集会」としてデメトリオ自身が処罰される可能性がありました。

3番目は「正式な会議」ですが、これはギリシア支配下において各都市に根付いていた「民会（エクレスシア）」を指します。これは町の規則に基づいて召集され、重要事項を決議する場となっていました。書記官はこの民会のトップでもありました。

④は最も抑止効果があったと思われる「暴動の罪に問われるおそれがある」でした。どんな理由でも、勝手に群衆を集めることはローマ法で禁じられており、これ以上大きくなると、私(書記官)であっても、かばいきれないと発言したことです。

これらの説得により、騒ぎがこれ以上続くと自分自身の立場が危うくなることを知ったデメトリオは矛先を収め、集まった住民もまた波が引くようにその場から立ち去っていったのです。

賢明な書記官の対応が光った出来事でした。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

顕現節(1/6～#3/4)

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

四旬節(#3/5～#4/12)

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

復活節(#4/20～#6/7)

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

聖霊降臨節(#6/8～#11/29)

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

待降節(#11/30～12/24)

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

降誕節(12/25～1/5)

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日(5/11・5月第二)
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)
父の日(6/15・6月第三)
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)
宗教改革記念日(10/31・1517年)
収穫感謝日(11/23・11月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)
聖書愛読週間(#3/23～29)
みふみの日(3月23日)
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)
最後の晩餐集会(#4月17日夕)
召天者記念合同礼拝(#6/1・6月第二*今年は第一)
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし
私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

しゅ
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、ひとびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白した者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

